

## 2006年度 第2回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2006年5月9日(火) 午後7時15分～9時15分  
開催場所：西東京ボランティア・市民活動センター活動室  
出席委員：熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、柳澤正樹、山下恭子  
<以上5名、敬称略、あいうえお順>  
欠席委員：阿部靖子、飯塚 睦、安岡厚子、<以上3名、敬称略、あいうえお順>  
事務局：齊藤地域福祉課長、中澤主事、今林コーディネーター、平田コーディネーター  
丸木係長

### 配布資料

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(4月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(5月)
- 資料 4：2006年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 5：2005年度西東京ボランティア・市民活動センター事業報告(案)
- 資料 6：2005年度西東京ボランティア・市民活動センター決算書(案)
- 資料 7：メールボックス利用にあたって
- 資料 8：収益事業(案)
- 資料 9：調布市民活動支援センター例
- 資料 10：2005年度第11回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>

委員長：2006年度第2回の運営委員会を開催する。運営委員会開催通知でお知らせした議題以外に、本日追加した議題があるようなので、最後に審議したい。

## 1. 報 告 事 項

### (1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告について

事務局より、資料1、2に基づき4月の業務報告を行う。以下、質疑、意見交換を行う。

委員長：保谷第二小学校運営協議会が主催して避難所1日体験が行われる。ボランティア・市民活動センターと一緒にできないかという話がある。後日相談があるかもしれない。

事務局：東伏見地域の自主防災組織に、東伏見コミュニティセンターで避難所体験をしないかという提案をしたらやってみたいという声があったので、具体化するかもしれない。

他に質問、意見無く、4月の業務報告を終了する。

委員長：では、続いて5月の事業予定の説明をしてほしい。

事務局より資料3に基づき5月の事業予定を説明する。

委員長：青年会議所主催のわんぱく相撲の他にも、障がい者とスポーツを楽しむ会が毎年5月に行われるので、ボランティア・市民活動センターのPRの機会になると思う。参加を検討してはど

うか。

委員：わんぱく相撲では風船を用意して、子どもたちを応援するようなことができればよいと思っている。

他に質問、意見無く報告事項を終了する。

## (2) .災害時のシステムづくり専門委員会の報告について

事務局より、第11回災害時のシステムづくり専門委員会（以下、災害専門委員会と表記）の協議内容について報告がある。

委員長：5月20日に開催される災害の講演会は運営委員もぜひ参加してほしい。

事務局：講演会当日の役割で災害専門委員会から、運営委員長に挨拶をお願いしたいとのことだったので、この場で運営委員長をお願いしたい。

委員長：詳細はあらためて打ち合わせたい。

他に質問、意見なく災害専門委員会の報告を終了する。

## 2 . 審 議 事 項

### (1) . 2006年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料4により、第12回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：4ページ下から8行目の委員長発言の箇所「日本NPOセンターの事務局長が勤めた。」は、「務めた。」であるので訂正するように。

他に訂正等の意見なく、第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とする。

### (2) . 2005年度西東京ボランティア・市民活動センター事業報告（案）について

事務局より、資料5に基づき2005年度西東京ボランティア・市民活動センター事業報告（案）について説明、提案される。

委員長：成果や課題の部分について意見を出してほしい。

委員：この作成された事業報告書をどのように活用していくのか。

事務局：過去には、事業報告書としてまとめて市民に配布したり、実習生や市民に対して事業説明用に使用している。

委員：ホームページに掲載するなどしてはどうか。

委員長：これだけの事業を行っているので、アピールすることによって、ボランティア・市民活動センターの信用度も高まるのではないかと事務局で検討してほしい。

委員：はじめの一步講座の日付の書き方がわかりづらいので工夫してはどうか。

委員長：子ども点字教室への参加者に対してのフォローはあるのか。たとえば、ボランティアグループで継続して勉強することを働きかけるなどしているのか。

事務局：ボランティアグループの活動日時が平日の昼間なので、子どもたちがグループに参加して学習を続けることは難しい。どちらかというと総合的な学習の時間で点字を勉強したので、もう一度夏に行う子ども点字教室に参加するということが多いようだ。

委員：2005年度に行った事業の課題を今後、どのように生かしていくのか。

事務局：翌年度の事業を行う際の参考としたり、事業の改善をしていく時の視点として活用している。

- 委員長：ボランティアのつどいでの課題として、対象者の絞り込みが足りなかったのではなく、目的を実現するための内容を検討する必要があるのではないかと。
- 事務局：イベント、お祭りにしたいという考え方や学習的な要素をしっかりと取り入れるという考え方や二つの考え方があり、その議論の中で焦点が曖昧になってきたということはあるかもしれない。
- 委員：目的をしっかりともったうえで実行するしかない。
- 委員：ボランティアのつどい実行委員会に学生が加わったことで何か変わったのか。
- 事務局：機動力があり、学生がいなければ実現できなかったプログラムがあった。
- 事務局：ボランティアのつどいは、ボランティア活動に参加する人を増やすということと、ボランティア活動をする人たちのネットワークをつくるという二つの目的があったが、この目的を年ごとに分けて実施したほうがよいのではないかと考える。
- 委員長：きっかけづくりを目的とした事業を、アスタのセンターコートで別事業として行うなども考えられる。
- 委員：総合的な学習の時間への協力では、学校に協力することが目的なのか。
- 事務局：学校の先生が総合的な学習の時間を組み立てられるように講座を開催し、支援することと、子どもたち、先生と地域の人とをつなぐことを考えたい。
- 委員長：本当の意味での総合的な学習にしていくことが必要である。武蔵野市国際交流協会では、途上国の現状を知ったりなどの国際理解のための教員ワークショップを行っている。学校の先生を巻き込む部分をボランティア・市民活動センターができればよい。
- 委員：学校の先生を対象とした講座ができればよい。
- 委員長：特別支援教育の施行によって、障がい児と健常児との関係をどうやって作っていくかを考えていくことが課題となっている。子どもに対して積極的に働きかけていくことが必要になる。そのことと総合的な学習の時間との関係が出てくるので、特別支援教育との関係も視野に入れて取り組む必要がある。
- 委員：総合的な学習の時間への関わりの目的を明確にもって取り組む必要がある。
- 委員長：長期的に計画立てて実施する必要がある。
- 事務局：都立高校での奉仕活動の義務化が来年度から始まるので、今年度から検討する必要があると考えている。
- 委員：大学でもボランティア体験を義務的に行っているが、送り出す側への働きかけや、どのような活動をしてもらうのかをしっかりと伝えることができればよいのではないかと。

以上、質問、意見が出された後、2005年度西東京ボランティア・市民活動センター事業報告(案)を承認する。

### (3). 2005年度西東京ボランティア・市民活動センター決算(案)について

事務局より、資料6に基づき、2005年度西東京ボランティア・市民活動センター決算(案)について説明、提案される。

質問、意見無く2005年度西東京ボランティア・市民活動センター決算(案)を承認する。

### (4). メールボックスの有料貸し出しについて

事務局より、資料7に基づきメールボックスの有料貸し出しについて説明、提案される。

委員：利用対象者の2番目を「活動場所が西東京市中心」としたほうがよいのではないかと。

委員：スペアキーを作るのは利用団体の自由とするのか。

事務局：そういう考えでいる。

委員長：メール便と宅配物の扱いについての明記をすることが必要なのではないかと。

委員：利用料が安いように思うが。年間合計額が1ヶ月の利用料でもよいのではないかと。

事務局：利用料を高く設定して、実際に利用があるかどうか疑問のため、(案)のように金額設定した。

委員：センターの利用率をあげることを目的の一つとするのであれば、事務所側にメールボックスを置いたほうがよいのではないかと。また、印鑑を押すことが求められる場合があるので、そのことへの対応を考えることが必要ではないかと。

以上の質問、意見が出され、事務局で指摘された事項を再検討したうえで実施することを承認した。運営委員会へは事後に報告することとした。

#### (5).収益事業への取り組みについて

委員長：本日は時間が無いので、次回の運営委員会に各運営委員がそれぞれ、考えられる収益事業のアイデアを3つ程度持ち寄ることとしたい。

#### (6).西東京市生活文化課からの事業委託について

事務局より主旨を説明する。

事務局：議題としては事業委託という表現になっているが、委託の話が具体的にありわけではなく、現在の西東京市からの補助金を総合調整課から生活文化課に変えてはどうかということである。

委員長：全国にある市民活動を支援するセンターでは、福祉分野だけではなく、広く市民活動を支援しようというところが多い。

委員：指定管理者制度による市民活動を支援するセンターが立ち上がっていく動きがあるのか。

事務局：今の段階で西東京市の中で具体的にそのような動きがあるということは聞いていない。

委員長：全国的にはNPOが支援センターのようなものを担っているところが結構ある。

委員：ボランティア・市民活動センターがあるにもかかわらず、他に市民活動を支援するセンターが立ち上がっていくこともあるのか。

事務局：可能性としてはあるのではないかと。

委員：補助金の出所を変えることによって、保健・福祉の分野以外を統合して担っていくことができるのではないかと。

委員長：生活文化課に補助金を移していくという動きをしていってよいのではないかと。

異議無く、総合調整課から生活文化課へ補助金の所管課を変えてもらう動きをしていくことが承認される。

以上をもって、2006年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。